

SSC
 埼玉県障害者社会参加 推進
 センタより

平成 28 年 12 月 30 日 111 号

編集
 埼玉県障害者社会参加推進センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原 3-10-1
 県障害者交流センター内
 TEL 048-825-0707
 FAX 048-825-3070
 メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp
 HPアドレス http://saitama-shokyo.org/info/
 発行 NPO法人埼玉障害者センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原 3-10-1
 頒価 一部 100 円(会費に含まれます)
 発行日 10 日・20 日・30 日

視覚障害者と鉄道事故

埼玉視覚障害者の生活と権利を

守る会事務局長 平野 力三

盲導犬ユーザーの事故



8 月 15 日、地下鉄銀座線青山 1 丁目駅ホームから品田直人さん(全盲・盲導犬使用)が転落、電車にひかれて亡くなりました。

盲導犬ユーザーのこの種の事故は少なく、私たちが記録している過去 22 年間 59 件(重傷・死亡例)の内死亡事故は僅かに 2 件を数えるにすぎません。杖歩行に比べて盲導犬歩行が、遥かに安全であるということが出来ます。しかし、事故は起きているのです。

鉄道事業が始まって 140 年余、視覚障害者の鉄道事故は数多く起きていたと思われませんが、最近のように大きく取り沙汰されることはありませんでした。

ご存知ですか？上野裁判

昭和 48 年 2 月 1 日、国鉄(現 JR)山手線高田馬場駅ホームで全盲の

上野孝司さんが電車の転落事故に遭い、遺族が提訴した裁判で和解した昭和 63 年 12 月の東京高裁の和解文には、「国鉄は、乗客の安全に努力しなければならぬ」との一項が含まれています。

これ以降、視覚障害者の鉄道事故をマスコミは、大きく取り上げるようになりました。また、駅ホームその他に、点字ブロックの敷設が進みました。



どのような人が落ちやすい？
 いわゆる「勘」の悪い人が落ちるのでしょうか。

平成 23 年 1 月 16 日、山手線目白駅ホームからブラインドテニス of 全日本チャンピオンで、素晴らしい「勘」の持ち主の武井視良さん(全盲)が転落事故に遭いました。

また、平成元年 5 月 18 日、JR 蓮田駅で、全盲の伊藤毅さんが、電車事故に遭いました。彼は、一人縄跳びをしている人に声を出させて位置を確認し、そこへ駆け込み二人で跳ぶという芸を持っていた、超一級の「勘」の持ち主でした。

東京視覚障害者協会のアンケートによれば、主に独り歩きをしている全盲の二人に一人以上が、ホームからの転落を経験しています。複数回転落した人も、少なくありません。誰でも落ちるといふことです。

ホームドアの設置を！



ホーム転落は、視覚障害者に限りません。毎年 1400 人前後の人が落ちていきます。たまたま、電車が来なくて命拾いをした人が、こんなにも大勢いるのです。

青山 1 丁目駅の事故後、国交省は鉄道事業者に、ホームドアの設置を急ぐよう指示しました。

全国約 9500 の駅で、ホームドアのある駅は、665 駅。(平成 28 年 3 月 31 日現在) 1 割にも満たないのです。設置に、多額の費用を要することは承知していますが、命に関わることです。

利用者の多い駅から、ダイヤの過密な路線から、計画的に、速やかに設置されることを、心から望むものです。

第37回

埼玉障害者まつり 大盛況

社会から根っこから差別をなくしていきましょう！

— 障害者差別解消法スタート

障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会

副会長 國松 公造

好天に恵まれ

賑わった会場



第37回埼玉障害者まつりは、台風続きで天候が気になりましたが10月としては、好天となり夏のような暑さでした。4800人の参加者で、楽しい一日を過ごすことができました。

「社会から根っこから差別をなくしていきましょう！障害者差別解消法スタート」をテーマにしました。障害者差別解消法が今年4月に施行されたこともあり、テーマに反映させようと実行委員会で話し合われました。

埼玉では今、1400人の人が、入所施設に入るために待機をしていると言われています。近くに入所施設やグループホームがなく、住み慣れた地域から離れて、他県の施設に入所している人もいます。サービスを利

用したくても、ヘルパーが足りないということも起きています。施設はできても、職員が集まらないところもあります。障害児学校では、生徒が増えて、教室が足りなくなり、特別教室が一般教室になっているところもあります。

「これも差別ではないでしょうか。」とチラシに書きました。この後、やまゆり園事件が起き、当日のシンポジウムでは、事件をテーマの一つに取り上げました。



参加者増加への新たな取り組み

今年は、宣伝や協賛金集めに力を入れ、市内の学校をめぐり8万枚配布しました。何を企画の目玉にしようか実行委員会や企画会議で話し合い、参加者を2階に上げるために「宇宙食の試食コーナー」を設置したら大盛況、午前中ではなくなりました。



宇宙食品のイメージ

いました。ホームページでの参加も増えました。臨時バスや駐車場の位置情報をスマホで知ら

せる取り組みも企業の協賛で行
いました。

イベント 盛り沢山!

浦和見沼太鼓の演奏が始まり、
華麗なバチさばきの中で、バン
バンと打ち上げ花火が開会を知
らせ、県副部長など来賓のあい
さつがありました。

子ども広場
の充実で、人
形劇から影
絵に変わり
ました。幻想
的な絵が浮
かび上がり
ました。射
的、輪投げな
どが好評過
ぎで、途中でお断り状態でした。
2階では、戦争展と障害者関係
のビデオ放映を行いました。



影絵のイメージ

喜ば子ども達

親には相談ブース

就学前の子どもたちの遊びと
相談ブース、今年も取り組みま
した。ゆったりと心が落ち着く
場にもなったようです。ゆるキャ
ラはコバトン アッピー（上尾
市）、まっくん・あゆみん（東松
山市）がやってきました。記念



撮影をする

光景が見ら

れ、会場を

風船マジッ

クの大きな

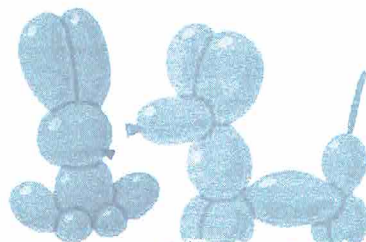
帽子をも

らって嬉し

そうに歩く

子もいまし

た。



風船マジックのイメージ作品

今年も、大道芸やプロレスの
場外乱闘に沸き、似顔絵師には
「休めなかった」と言われるほ
ど賑わいました。

駐車場は、関係者以外の駐車
があり、抗議したが若干減った
のみというアクシデントがあり
ました。

暑さのためか、模擬店では、
飲み物がいち早く無くなりまし
た。昨年好評だった「びゅーち
ふるず」の歌と踊り、初参加の
フラダンス、手話ダンスなど企
画もさらに盛り沢山でした。美
術展は、個人・グループが初め
て参加することも出て、部屋

いっぱい展示になりました。

木工教室だけでなく、特殊な

液を使って、針金に付け、花を

つくるアメリカンフラワーも楽

しみました。

健康

マッサー

ジ、年金

相談、精

神障害

者家族

会も相

談コー

ナーを

設けま

した。

体育館ではふれあいスポーツコー
ナーもお馴染みになりました。

I M O バンドの演奏で中央舞
台がファイナレを迎え、唐土久
美子さんの歌で室内舞台が締め
くくられました。皆様のお力添
えで盛況の内に終わりました。



イメージ

難病障害者のひろば

難病対策における

就労支援のあり方

医療モデルケースから

埼玉県障害難病団体協議会

事務局長 仲島 雄大

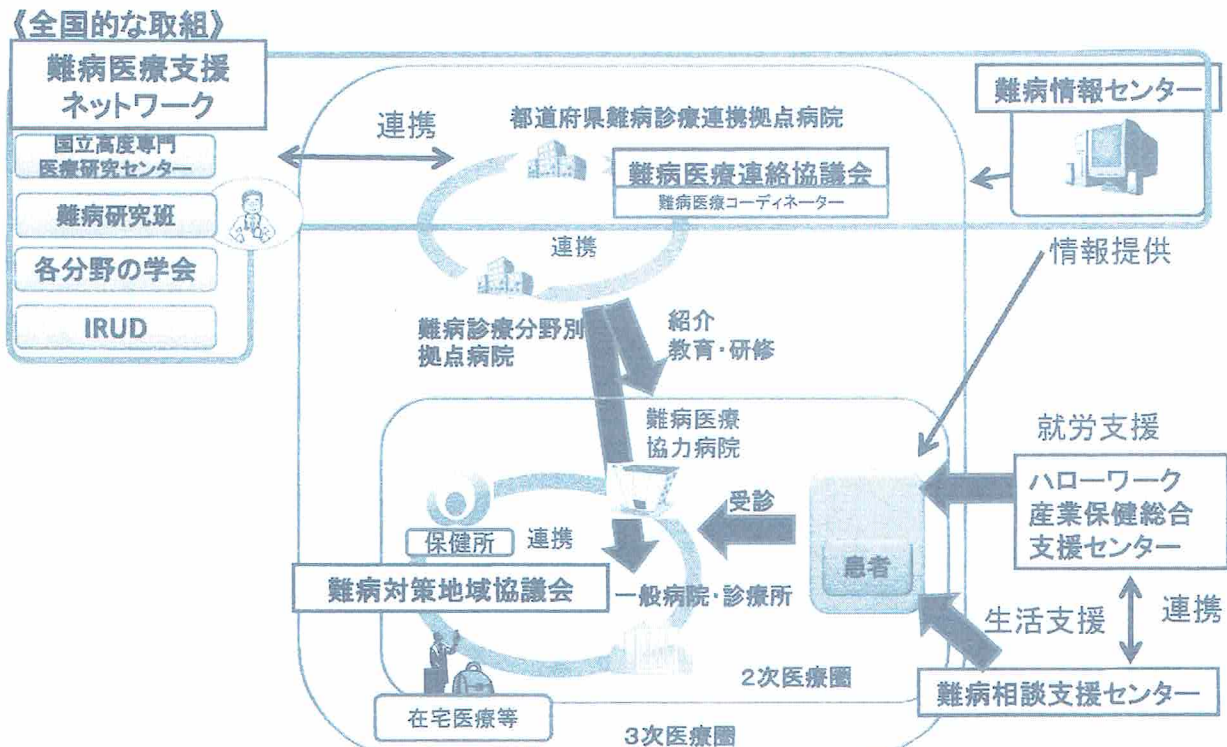
平成25年4月より難病等が「障害者総合支援法」の対象になって、3年半余り経ちました。その間「難病の患者に対する医療等に関する法律」および「児童福祉法の一部改正法」が昨年1月1日より施行されました。よって対象疾病数が大幅に増加し、指定難病が306疾病、障害者総合支援法においては332疾病となりました。

平成27年度の指定難病受給者数統計が11月に発表されました。総数94万人余のうち患者数の最も多い疾病は16万6千人余の潰瘍性大腸炎です。患者数を年齢別に見てみると、特に若い世代に多く発症する疾患が、潰瘍性大腸炎、クローン病、全身性エリテマトーデス

などです。学生時代に発症する方も少なく無く、学業にも影響を及ぼし、留年、退学を余儀なくされることもあります。また、就職に關しても病状の説明、仕事と治療の両立の場面では悩みも多く、どこに相談して良いかわからない若者も少なくありません。若者の場合はキャリア形成ができる環境が望ましいのですが、なかなかその機会に恵まれないこともあります。またパーキンソン病においては高齢者が多く、12万余の患者の中には働き盛りの方も多く、住宅ローン、教育費などの経済的な問題、病状のコントロールの難しさなど、様々な問題を抱えています。下の図は医療提供体制のモデルケース案です。埼玉県でも、来年より難病対策地域協議会が開かれることになりました。そこには図のように、患者当事者、難病相談支援センター、ハローワーク、産業保健総合支援センター、保健所などのステークホルダーが参加できることを強く希望します。

Ⅱ. 新たな難病の医療提供体制のモデルケース(案)

○ 診断後はより身近な医療機関で適切な医療を受けることができる体制。



知的障害者のひろば

新作業所での 活動スタート

社会福祉法人みぬま福祉会

蓮田はすの実作業所

大熊 恭之

蓮田はすの実作業所は、1999年4月に蓮田市が市内に設置した2つ目の施設です。2005年4月、指定管理者制度により、みぬま福祉会が蓮田市から委託運営となりました。2012年4月に事業移行し、デイケア施設から定員20名の生活介護事業所となりました。それに伴い、土地や建物を蓮田市から貸与され、みぬま福祉会の独自運営となりました。

そして、蓮田サービスイリア新設工事の用地に作業所の敷地が含まれていたため、今年4月に引っ越しをしました。

作業所の移転が決まり、新しい建物を作ることが決まった時、

「そこで働く仲間たちの意見も入れていただきたい」と、仲間たちと要望書作りをしました。仲間たちにとつては、市に対する要望書作りという初めての経験でしたが、「今より広い場所がほしい」「車いすの仲間も過ごしやすいところ」「トイレも増やしてほしい」と自分のことだけではなく、一緒に働く仲間のことでも考えた要望書になりました。そして、仲間代表が蓮田市長に直接要望書を手渡すこともできました。新しくできた建物は、仲間たちの要望も取り入れていただいたものになりました。



仲間たちの集う新しい作業所、完成！

様々な活動から 生れる作品たち

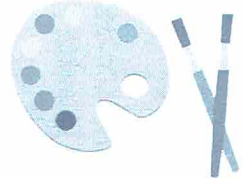
現在、作業所には24名の障害のある仲間たちが通ってきています。作業はクッキー作り工場からの下請け作業をする班と、牛乳パックをリサイクルしたはがき作りを行う班の2つがあります。はがき作りでは、絵手紙用のはがき・丸型・名刺・長大判・大判（はがき2枚分）などを作り、地域の絵手紙教室の方などに買っていただいています。また地域の方から広がり、神奈川県や栃木県、遠く石川県の方などから注文をいただいています。



また作業以外には、地域の読み聞かせや音楽のボランティアさんが来所されたり、創作活動を行ったりしています。



ます。創作活動では、織物やステンドグラス、絵画に木工など、いくつかの活動の中から自分のやりたい興味のある活動に参加しています。そこでできた作品や製品は、年に一度開催している作品展で展示したり、地域のイベントなどで販売しています。『製品の豊富さ』が特徴の1つです。



つながりを大切に



また地域の方とつながりも大事にしています。新しくなった敷地内に大きな畑を作っていただきました。近隣の農家さんにご指導いただきながら、野菜を植えています。様々なつながりを通して、地域で暮らす仲間たちへの理解も広がっていくのだと感じています。

精神障害者のひろば

家族会の 取り組み

埼玉県精神障害者家族会連合会

(のぞみ会)

総務委員長 神田 芳夫

精神障害者の家族会から、現在取り組んでいる活動の一端をご紹介します、ご理解を広めたいと思います。

交通運賃



割引制度の適用を！

精神障害者にも、と訴えて国会への請願署名活動に取り組み、全国で約65万筆を越える皆さま方のご芳名をいただきました。心よりお礼申し上げます。

国会では、残念ながら審議未了で採択されず、今後に期待する状況となっています。収入の少ない当事者とその家族にとつ

て、他の障害者に認められている制度の適用は生活上切実な要求となっています。現在の状態は、障害者差別解消法に極めて反するものであると考えております。早急な関係者各位の決断を要望するところです。

署名活動の一定の成果を踏まえて、現在JR・私鉄をはじめとした交通関係の事業所へ働きかけを全国で行っています。

埼玉県議会においても、全会派が一致して賛成し、国へ適用対象として働きかけるよう意見書を提出して下さいました。

埼玉県下の市町村においても、同様の決断をしてもらえたら力強い働きかけになるのではなにかと思っております。今後共ご支援のほどよろしくお願いたします。

埼玉県障害者まつりに参加

10月2日の障害者まつりに、当会としては相談のコーナーを

設けることで、初めて参加させて頂きました。他団体の様々なイベントや催し物を見せてもらい、感動で胸が震えました。私どもも、来年はもつと工夫を凝らして、ご来場の方々注目してもらえようになりたいと思いました。



設置した相談コーナーにて

来年度に向けた県への要望

埼玉障協の参加団体として県の予算編成に際し

- ① 医療費への助成
- ② 交通運賃の割引
- ③ 就労及び離職率のデータの開示を要望しました。

さらに当会独自に

- ① 教育機関における対応
- ② 訪問型医療の拡充
- ③ 生活実態調査

を求めました。①に関しては、話し合いの場を設けてもらう事が出来ました。

沢山ある課題を、一つ一つ解決に向けて取り組んでいきたいと思っております。

関東ブロック大会は 埼玉県で開催予定

家族会の全国組織である全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)の関東ブロック大会が、当会の運営責任で平成29年11月2日に大宮ソニックシティにおいて「家族の力が地域を変える」をテーマに開催される予定です。充分な準備をして、よりよい大会にしたいと思っております。

各方面各位のご協力とご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます

身体障害者のひろば

第5回 福祉大会を終えて



公益社団法人
埼玉県視覚障害者福祉協会
福祉大会実行委員長 岡村 淳子

去る10月23日(日)に埼玉県障害者交流センターにおいて第5回福祉大会を開催しました。会員、関係者を含め60人ほどの参加でした。

10時より開会式が始まり、沢山の来賓の方々より心ある温かいご挨拶をいただくことができました。

赤糸はどっしとしたら 変えられる？

パネルディスカッション

今回の福祉大会は講演会を中心とした企画としました。

午前中は「次世代を担う人たちの未来は、何をしたら変えられるの

か」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。3人のパネラーにそれぞれ今までの経験や困ったことなどのお話をさせていただきました。3人のお話の中で共通点としてこれからの次世代を担う人たちに求めることをまとめました。

☆「そこそこの歩行能力」

☆「そこそこのパソコン能力」

☆「そこそこのコミュニケーション能力」です。これら完璧にできていなくてもよく、そこそこできていれば大丈夫だということでした。

昼食休憩時には恒例となりました視覚障害者にとって必要な日常生活用具の福祉機器展示を行い、仕様などの説明を受けながら、どのブースも多くの人で賑わっていました。また、すぐに購入した人もいたようです。



生きがいのある 生活に向かって

記念講演

午後の記念講演として「同行援護と移動支援及び意思疎通支援を理解し、充実した毎日を通「そとう」をテーマに、日盲連の竹下義樹(たけしたよしき)会長に講演をしていただきました。

難しい制度の使い分けなど、分かりやすく丁寧に説明していただくことができました。

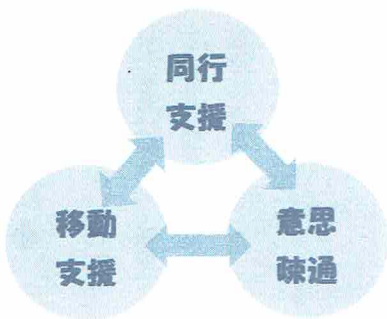
私たち視覚障害者にとって今後充実させていかなければならない制度だけに、参加者の方々も真剣に聞いていました。また参加者からは「複雑な制度の仕組みについて、大変明解にお話をしてくださり、今ある制度を賢く使いこなすための知識や知恵を身につけられ有意義な経験でした。今後の制度利用時に活かしたい内容に満ちていました。」と感想をいただいています。

そして閉会式には現状を訴えた

宣言文、今後の活動の基礎となる決議文が披露され、それぞれ拍手のもと採択されました。

最後になりますが障害者差別解消法が施行されたとはいえ、まだまだ障害者には障壁が沢山あり、問題も山積みです。ひとりでは解決できない問題もみんな力で力を合わせていけば、大きな力となり解決の糸口になることでしょう。生きがいの持てる生活、安心して暮らせる社会にするために頑張っていきたいと思えます。

これからも今まで以上の、皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願ひ申し上げます。



充実した毎日を過ごそう！

きりく・ハンドベル アンサンブル による クリスマスコンサート

障害者交流センターニュース

「きりく・ハンドベルアンサンブルによるクリスマスコンサート」を実施しました。

11月27日(日)、センターホールにおいて、きりく・ハンドベルアンサンブルによるクリスマスコンサートを開催しました。10月からチケット販売を開始したところ、プロ・ハンドベル奏者の第一人者である大坪泰子氏のプロデュースにより結成された「きりく・ハンドベルアンサンブル」の評判を聞き

つけ、約1ヶ月でチケットは完売。当日も、ホールは満席。熱気にあふれた75分間になりました。クリスマスにちなんだ曲やどこかで聞いたことのある馴染みのある曲目での「きりく・ハンドベルアンサンブル」による演奏。パフォーマンスは天使のハンドベルと言われているとおり、見応え、聴き応え十分でした。

8人の奏者による息のあった流れるようなハンドベルの音色はもちろんなこと、大きささまざまなベルを自由自在に操え、まるで千手観音を思わせる演奏テクニクに、拍手喝采……！



アヴェマリア
ノクターン第2番
見上げてごらん
夜の星を
Take Five
サンタが街に
やってくる
きよしこの夜 他



埼玉県障害者交流センターホールにて

澄み切った音色のハンドベルで、足早いクリスマスを味わうことができた1日になりました。ぜひまた来年も！という声も多く、誰もが、身近に一流の演奏を楽しめるコンサートを今後も実施していきたいと考えております。

障害者交流センター文化・芸術担当

竹田 友美

◆編集後記◆

話はチョット古いのですが、ハッ！と受けた感激は印象的で新鮮です。

この春、団体交流室主催による一泊研修に参加しました。途中ドライブインでの出来事です。トイレを済ませてブラブラしていると、同じ団体旅行の白杖のご主人とその奥様に声を掛けられました。「済みません、主人がトイレに行きたいのです、お願いします」。チョット不安は有りましたが、快く引き受けました。ドアの外で、猛烈な不安と反省の気持ちを押し寄せて来ました。トイレのペーパーや水洗ボタンの位置を案内しなかったのです。その後手を洗う場所を案内しましたが水栓の位置・手を乾燥する場所も細かく案内しなかったことに反省しました。トイレを済ませ奥様の待つているところへ歩く途中、「ありがとうございました」ところでこの団体の方ですか？、「オストミー協会です」？、「人工膀胱・人工肛門の団体です」。「それは大変ですねえ」心の底から同情されました。

日本オストミー協会

埼玉県支部長 須賀 昭典

先着順

みぬまわいわい寄席

笑う門には福来る！

日時：2月19日(日)

会場：埼玉県障害者交流センター

12月1日からチケット発売！

お申込・お問合せ

TEL.048-834-2243